

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成18年4月6日(2006.4.6)

【公開番号】特開2000-273178(P2000-273178A)

【公開日】平成12年10月3日(2000.10.3)

【出願番号】特願平11-76216

【国際特許分類】

**C 0 8 G 77/24 (2006.01)**

**C 0 8 G 77/385 (2006.01)**

【F I】

C 0 8 G 77/24

C 0 8 G 77/385

【手続補正書】

【提出日】平成18年2月13日(2006.2.13)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

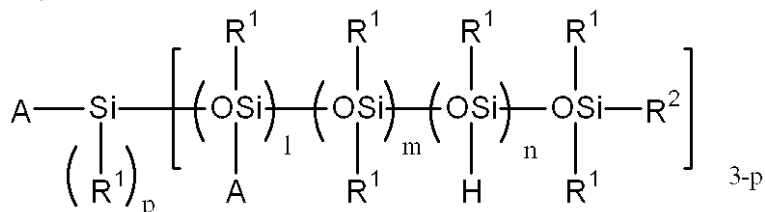
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

下記一般式(1)で表わされることを特徴とするクロロメチルフェニル基含有ジオルガノポリシロキサン化合物。

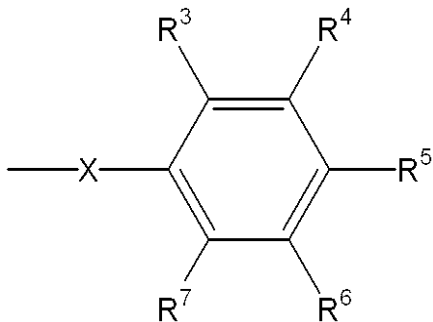
【化1】



(1)

[式中、R<sup>1</sup>はメチル基またはフェニル基であり、R<sup>2</sup>は炭素数1~6の直鎖もしくは分岐鎖のアルキル基またはフェニル基またはAであり、lは0~500の整数、mは0~1000の整数、nは0~500の整数、pは0~2の整数であり、Aは下記一般式(2)で表わされる基であり、

【化2】



(2)

Xは炭素数2~20の直鎖もしくは分岐鎖のアルキレン基であり、R<sup>3</sup>、R<sup>4</sup>、R<sup>5</sup>、R<sup>6</sup>、R<sup>7</sup>のうち少なくともひとつはクロロメチル基であり、残りの基は水素もしくは炭素数1~20

の直鎖もしくは分岐鎖のアルキル基である]

【請求項2】

請求項1記載の一般式(1)において、 $R^2$ が炭素数1~6の直鎖もしくは分岐鎖のアルキル基またはフェニル基であり、 $l$ が0であり、 $p$ が2であり、且つ数平均分子量が500~200,000の範囲であることを特徴とする片末端クロロメチルフェニル基含有ジオルガノポリシロキサン化合物。

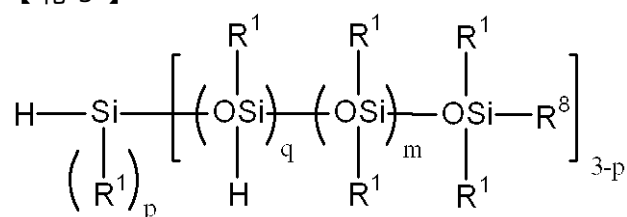
【請求項3】

請求項1記載の一般式(1)において、 $R^2$ がAであり、 $l$ が0であり、 $p$ が2であり、且つ数平均分子量が500~200,000の範囲であることを特徴とする両末端クロロメチルフェニル基含有ジオルガノポリシロキサン化合物。

【請求項4】

下記一般式(3)で表わされる化合物と、下記一般式(4)で表わされる化合物とをヒドロシリル化反応触媒存在下に反応させることを特徴とする、クロロメチルフェニル基含有ジオルガノポリシロキサン化合物の製造方法。

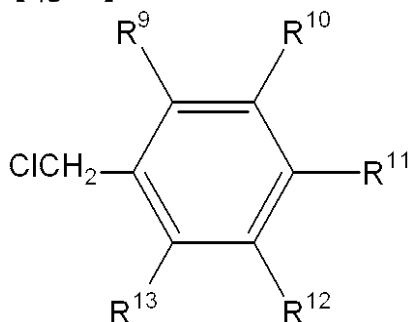
【化3】



(3)

[式中、 $R^1$ はメチル基またはフェニル基であり、 $R^8$ は炭素数1~6の直鎖もしくは分岐鎖のアルキル基またはフェニル基または水素であり、 $q$ は0~1000の整数、 $m$ は0~1000の整数、 $p$ は0~2の整数である]

【化4】



(4)

[式中 $R^9$ 、 $R^{10}$ 、 $R^{11}$ 、 $R^{12}$ 、 $R^{13}$ のうち少なくともひとつは炭素炭素二重結合を有する炭素数が2~20のアルキレン基であり、それ以外は水素もしくは炭素数1~20の直鎖もしくは分岐鎖のアルキル基である]

【請求項5】

請求項4記載の一般式(3)で表される化合物として、 $R^8$ が炭素数1~6の直鎖もしくは分岐鎖のアルキル基またはフェニル基であり、 $p$ が2であり、且つ数平均分子量が500~200,000の範囲である片末端SiH基含有ジオルガノポリシロキサン化合物を用いることを特徴とする、片末端クロロメチルフェニル基含有ジオルガノポリシロキサン化合物の製造方法。

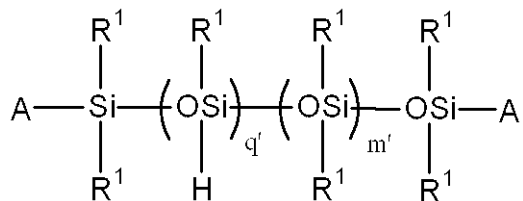
【請求項6】

請求項4記載の一般式(3)で表される化合物として、 $R^8$ が水素であり、 $p$ が2であり、且つ数平均分子量が500~200,000の範囲である両末端SiH基含有ジオルガノポリシロキサン化合物を用いることを特徴とする、両末端クロロメチルフェニル基含有ジオルガノポリシロキサン化合物の製造方法。

## 【請求項 7】

一般式(5)で表わされる両末端クロロメチルフェニル基含有ポリシロキサン化合物と、下記一般式(6)とを酸性触媒存在下に反応させることを特徴とする下記一般式(7)で表わされる数平均分子量が500~200,000の両末端クロロメチルフェニル基含有ジオルガノポリシロキサン化合物の製造方法。

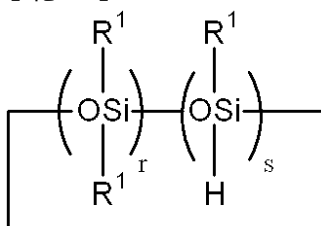
## 【化5】



(5)

[式中、 $R^1$ はメチル基またはフェニル基であり、 $q'$ は0~1000の整数、 $m'$ は0~1000の整数であり、Aは一般式(2)で表わされる]

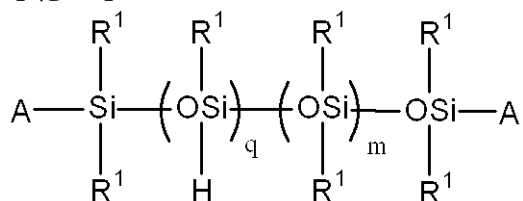
## 【化6】



(6)

[式中、 $R^1$ はメチル基またはフェニル基であり、 $r$ は0~6の整数であり、 $s$ は0~6の整数であり、 $r+s$ は3~10の整数である]

## 【化7】



(7)

[式中、 $R^1$ はメチル基またはフェニル基であり、 $q$ は0~1000の整数、 $m$ は0~1000の整数であり、Aは一般式(2)で表わされる基であり、Xは炭素数2~20の直鎖もしくは分岐鎖のアルキレン基であり、 $R^3$ 、 $R^4$ 、 $R^5$ 、 $R^6$ 、 $R^7$ のうち少なくともひとつはクロロメチル基であり、残りの基は水素もしくは炭素数1~20の直鎖もしくは分岐鎖のアルキル基である。ただし、 $q \geq q'$ であり、 $m \geq m'$ である]